

道徳の時間で活用する ～感謝～

光市立光井小学校 川部 みゆき

1 本場面におけるポイント

- **ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。**
「私たちの道徳」の「家族のやくに立つことを」を読み、自分のことを大切に思っている家族の存在に気付くことを通して、家族が自分のためにしてくれていることに気付く場にする。
- **書く活動を通して、道徳的価値の再認識をする。**
書く活動を通して、自分が家族に支えられ、助けられているということを認識させ、感謝の気持ちをもたせる。
- **家族の中の一員として役に立った自分に気付く。**
「私たちの道徳」を持ち帰り、家庭で実践したことを書くとともに、保護者にもメッセージを書いてもらうことで、自分が家族のために取り組んだことへの達成感を味わわせる。。

2 授業の実際

- 1 主題名 「家族のやくに立つことを」
(題材名「家族のためにできることはないかな」)

2 ねらい

家族が、自分のためにしてくれていることを考える活動を通して、日々の生活の中で、自分が支えられていることに気付き、家族のためにできることを行おうとする心情を育てる。

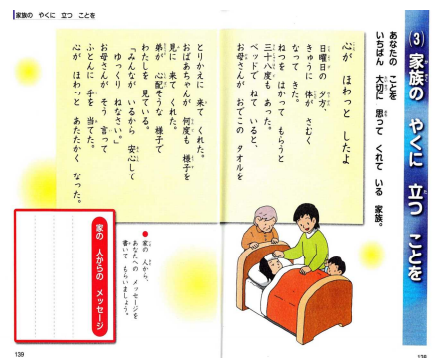
3 展開

- (1) 導入 ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。

教師：家族は、大切なあなたにどんなことをしてくれるだろう。
 A児：誕生日にお祝いをしてくれる。
 B児：いつも御飯を作ってくれる。
 C児：一緒に遊んでくれる。
 教師：どうして、家族はみんなにこんなにしてくれるのだろう。
 A児：大切に思っているから。
 B児：一番のたからものだから。

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

1・2年生用P.138「こころがほわっとしたよ」を読み、自分のことを一番大切に思っているのは、家族であることに気付かせる。



(2) 展開 「家族のためにできることはないかな」を読み、家族のためにできそうなことを話し合う。

教師：今まで、家族のためにどんなことをしたか。

A 児：お風呂掃除。


B 児：お料理の手伝い。

教師：家族のために、役に立つことをしたとき、家族の人たちは、どんな気持ちだったろう。

A 児：うれしい。

B 児：またやってほしい。

C 児：ありがとう。



(3) 終末 今までの自分を振り返り、これから自分が家族のためにしてみようと思うことを考える。

教師：今日の学習を通して、これから家族のためにしてみようと思うことは何だろう。

A 児：誕生日のプレゼントを作ってあげる。

B 児：弟をだっこして、ねかせる。

C 児：お父さんの肩たたきをする。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

家庭で実践したら、1・2年生用のP.142に、その時のことを思い出して、自分の気持ちを書くように促す。また、家の人から、一言書いてもらえるように、学年便りを通じて、家庭にお願いする。

3 実践を振り返って

児童A：弟のお世話をしたよ。弟もお母さんも喜んでくれて、うれしかった。

児童B：夕御飯を配ったよ。そうしたら、いつもより、夕御飯が早くなったよ。

児童C：落ち葉をはいたよ。家の周りがきれいになったよ。

家の人A：まだ、小さいと思っていたのに、しっかりとお手伝いをしてくれて助かりました。

家の人B：肩もみがとても気持ちよかったです。



今までも、ほとんどの児童が手伝いをしているが、今回の学習を通して、家族の一員であるからこそ、家族の役に立ちたいという心情が生まれてきたように思う。